

令和2年度 第2回千葉県スポーツ推進審議会 書面開催会議録

令和3年3月 開催

<委員> (敬称略50音順)

大野 敬三 黒川 仁美 高坂 俊介 添田 智恵 高橋 直子 寺山 由美
浪越 一喜 畑佐 耕一郎 藤井 和彦 涌井 佐和子

<オブザーバー> 向後 依明 川崎 浩祐 井上 昌士

<事務局職員>

教育庁		教育次長	吉野 美砂子
健康福祉部	健康づくり支援課	地域健康づくり班	主 事 石塚 雅士
	高齢者福祉課	生きがい活動推進班	主 事 高比良 桜
	障害者福祉推進課	障害保健福祉推進班	主 事 牲川 智彦
農林水産部	安全農業推進課	食育推進班	主 事 友田 朱音
商工労働部	観光企画課	観光企画室	主 事 栗原 玲子
県土整備部	公園緑地課	県立公園室	副主査 石井 卓也
環境生活部	オリンピック・パラリンピック推進局		
	開催準備課	戦略推進班	副主査 倉持 進伍
	オリンピック・パラリンピック推進局		
	事前キャンプ・大会競技支援課	大会競技支援班	班 長 松井 龍行
企画管理部	教育政策課	教育立県推進室企画班	主 査 関 隆允
教育振興部	生涯学習課	学校・家庭・地域連携室	主 査 星 一徳
	学校安全保健課	給食班	指導主事 浅賀 隆之
	学習指導課	義務教育指導室	指導主事 久我 正光
	特別支援教育課	教育課程指導室	指導主事 中田 潤子
	体育課		課 長 伊藤 政利
	施設・調整班		班 長 山口 崇憲
	学校体育班		班 長 鈴木 智夫
	スポーツ推進室		主幹兼室長 津田 亘彦
	スポーツ推進室競技スポーツ班		班 長 岩埜 直史
	スポーツ推進室オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援班		
			班 長 森井 優
	スポーツ推進室生涯スポーツ班		班 長 溝口 洋樹
	同		指導主事 林 俊則
	同		指導主事 林 徹
	同		指導主事 重藤 融
	同		指導主事 渡辺 国剛
	同		指導主事 桃木 一
	ちばアクアラインマラソン準備室		主 幹 大岡 正和

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面での開催に変更

書面開催内容

【報告事項】

- ア 第76回 国民体育大会冬季大会について
- イ 障害者アスリート強化・支援事業について
- ウ ちばアクアラインマラソンについて
- エ 令和2年度 県民の運動・スポーツに関するアンケート調査について

【審議事項】

- a 令和3年度スポーツ団体に対する補助金について
- b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和2年度の主な施策の工程表点検・評価について
- c 第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」概要及び構成図（案）について

☆委員からの御質問・御意見

審議事項 a 令和3年度スポーツ団体に対する補助金について

○令和3年度の補助金額及び対象事業について異論はありませんが、令和2年度の実績（使途）についてはどのようになっているのでしょうか？

◀回答▶（令和2年度実績）

1. 千葉県スポーツ推進連合会事業補助金⇒各事業で全額使用
2. 千葉県スポーツ協会事業補助金⇒各事業で全額使用
3. 国民体育大会ユニホーム補助金⇒冬季国体スケート競技のみ使用（残額は戻入）
4. 国際スポーツ交流事業補助金⇒事業の中止により全額戻入

○今後、補助金について審議するのであれば、前年度の決算報告とか予算計画などの詳細情報の資料があったほうが適切だと思いました。

○コロナ禍の中、妥当と思う。ただし補助金の考え方は前回記述したとおりであり、今後、団体活動を推進していくため、増額等についても検討願いたい。

○スポーツ等の価値は近年正しく評価されていると考えるが、スポーツ実施と経済効果はなかなか結び付いていないそこでとりわけスポーツ推進は行政が率先して行っていかなければならないものと考えている。（特に地方においては）

審議事項 b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和2年度の主な施策の工程表点検・評価

リンクA 子どもの体力向上と学校体育活動の充実

施策1 幼児期における運動習慣の基盤づくり

○コロナ禍を通して、保護者の間に「安全重視で運動させない、外出させない、人と接触させない」という思考が定着しつつあると感じている。何が安全で、何が安全でないのか、こういった社会環境の中で保護者は子供の健康増進にどう向き合うべきなのか、といったことへの啓蒙強化を期待したい。

○休日1時間以上の運動遊び実施率が令和2年度の上昇はコロナの中上昇となり良い傾向を感じた。

○「休日の運動遊び1時間以上」の割合は、前回調査の結果からは5%程度の増加が見られるが、30年度

以前の水準に戻っただけであり、新型コロナの感染拡大による生活習慣の変化などの影響を考えると必ずしも成果が上がっているとは言えない結果である。「家庭教育リーフレット」の作成・配布は効果的であると思うが、多様な媒体を活用しながら、親子で楽しめる運動遊びの活動内容を積極的に発信していくなど、引き続きの取り組みが求められる。

○様々な活動が効果的に行われていたと思われます。とても良い傾向だと思います。

リンク A 子どもの体力向上と学校体育活動の充実

施策2 学校体育活動の充実

○学校体育指導資料（中学校）の内容について。体育理論の領域でオリンピズムに関する内容は盛り込まれていますでしょうか。体育理論のグループワークの具体例など生徒目線での内容があるとオリンピズムの理解も進むと思います。

《回答》

学校体育指導資料では、第1学年及び第2学年の内容で作成をしております。そのため、第3学年の内容である「文化としてのスポーツの意義」（イ）国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な役割については、今回、取り上げておりません。

○上記施策1の学校現場でのケースと考える。教職員向けに、県としての指針をもっと明確に打ち出すことを検討しても良いのではないかと。

○オリンピック教室は、主催団体の意向を重視しますが、基本的に緊急事態宣言期間中は中止とし、期間中ではなくてもオリンピックが「外部講師」という立場になることから生徒への影響を考え検討しました。

○体育の事業が楽しい、小5目標の95%を目指してほしい。中2、良い傾向を感じた。目標90%を目指してほしい。

○公教育の役割としては、例え1%でも「楽しくない」と感じる児童・生徒がいるならば、その原因・理由を確認し、学校体育の取り組みとして改善できる点については改善していく、という姿勢が重要であるとする。

リンク A 子どもの体力向上と学校体育活動の充実

施策3 児童生徒の体力の向上

○上記施策2を踏まえた結果がこの施策3にあると考える。

○コロナ禍にあって、生活スタイルや運動へのかかわり方が変化する中で、令和3年度の結果については令和元年以前と単純に比較できないと考えます。

○今後、コロナ禍の体力、身体活動への影響は把握が必要だと思いました。

○新体力テストが中止となり残念です。

○子どもの体力問題については、まず上述の「体育の授業の楽しさ」同様に、著しく体力水準の低い児童・生徒に目を向け、底上げを図っていくことが公教育の役割であるとする。「平均点を上げる」ことへの対応の中にこうした視点を据えることが重要ではないか。加えて、学校ごとの工夫した取り組みの実施（日常的な運動機会の創出）が、児童・生徒の運動への興味・関心を高め、体力の向上に

もつながっていくといった事例がみられることから、各学校における組織的な取り組みを後押しするような働きかけも必要であると考えます。

- 特体連主催の大会はすべて中止となったが、事業紹介にもあるように「リモート駅伝」のように工夫して行った学校や地域があった。特体連として「コロナ禍における各学校の体育的活動及び授業実践例集を作成し、ホームページにアップした。

リンク A 子どもの体力向上と学校体育活動の充実

施策4 運動部活動の充実

○運動部活動の充実

部活動改革を踏まえた日本スポーツ協会（JSP0）が目指す地域スポーツ体制づくりでは、「部活動」「スポーツ少年団」「総合型クラブ」を融合したものとして確立することがゴールとして示されています。具体的な取組の欄に、スポーツ少年団との連携を付け加えてはどうか。

《回答》

ご意見ありがとうございます。今後、検討させていただきます。

- ガイドラインにある「部活動の活動時間を縮減するだけでは、部活動そのものが衰退し、部活動本来の趣旨が損なわれてしまう」ことには全く同感です。本年度はこの点については各学校で変化があったのでしょうか。また、高等学校は、部活動が学校の特色になっており進路にも大きく関係している学校がありますが、このような学校についてはガイドラインの扱いをどのようにお考えでしょうか。

《回答》

今年度は、新型コロナウイルス感染症への対応で、部活動を中止したり活動時間を制限したりした中で活動が多くなったこともあり、各学校への通知の中で、改めて合理的でかつ効率的・効果的な活動を行うよう依頼しました。平成30年6月に千葉県の運動部活動ガイドラインを改訂し、各県立学校が部活動の活動方針を策定していますが、活動時間や休養日が県のガイドラインと異なる学校もあります。学校の特色を生かし、成長期の生徒がバランスのとれた生活を送ることができる部活動となるよう取り組んでまいります。

- 上記施策3回答同様。

- コロナ禍での「活動ができないから、活動ができる喜び」がデータに反映していると考えれば、活動日数や活動時間を再考し、新たな運動部活動を考えていく機会になると考えます。

- 運動部活動の満足度

中2、高2ともに増加傾向は良い。令和3年度の目標はすでに達成しているのもう少し目標の数字をあげた方が良い。

- 部活動改革は、学校教育をめぐる課題の中でも、最も喫緊の対応が求められる課題のひとつであると思う。次期計画では更に重要な施策として位置づけられていくことも考えられる。今回満足度が上昇している理由が、活動再開後の喜びが影響したものなのか、全体的に活動時間が「ほどよく」抑えられた結果によるものなのか、などの検証も必要かも知れない。児童・生徒に対する調査の中でクラブでの活動を通して得たいことについての質問があるが（Q14）、運動部活動と地域のスポーツクラブ各

々に対する目的の違いを確認することや、特に運動部活動に対してどのような目的を持って参加しているのか（競技志向か楽しみ志向かなど）、などの分析が必要なのかも知れない。

- “運動ができる喜び”を生徒が感じられることができたのはコロナ禍での一筋の光ですね。子供達にとって心と体を楽しめる部活動が続くと良いと思います。

リンクA 子どもの体力向上と学校体育活動の充実

施策5 心身の健全な発達に向けた食育の推進

- 上記施策3回答同様。
- 朝食を食べない割合、0%は難しいと思うが、1~2%にはしてほしい。
- “朝食を食べる”は園児の保護者の男性が最も低いです。運動を休日1時間以上行うことが増えているので、運動の啓蒙活動を同時に「朝食をたべよう！」も実施するとよいのではないかと思います。

審議事項 b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和2年度の主な施策の工程表点検・評価

リンクB 運動・スポーツを楽しむための健康・体力づくり

施策1 ライフステージに応じた運動・スポーツの推進

- コロナ禍を通して、県民の体を動かす機会が大きく減退してしまっている。その中で、ライフステージに応じた変化を把握するとともに、世代別の健康増進機会の促進となるよう、取り組みに期待したい。
- 総合的にスポーツ実施率の高まりがはっきりしていました。
- 週1回程度のスポーツ実施率、コロナの中良い傾向と思う。
- スポーツ実施率の向上は好ましいことであるが、実はその数値の向上を図る取組は非常に地道な作業でもある。全体合計では前年から2.6%の上昇があったということになるが、これは実数で推測すると約525万人程度の成人人口のうち新たに10~15万人が週1回以上の頻度で運動・スポーツの習慣を身につけたことになる（平成30年~令和元年の約18%の上昇では100万人近い人が新たな運動習慣を身につけたことになる）。これほどの変化は、現実的にはそう簡単に起こりうるものではない。数値の上昇は好ましいことであるが、その原因を把握しようとする姿勢も重要だと考える。
- スポーツイベントは皆さんが望んでいることと思います。今後も続けていくと効果が出ると思います。

リンクB 運動・スポーツを楽しむための健康・体力づくり

施策2 障害のある人の運動・スポーツの推進

- 現在、障害は、障がいという表記が多くなっていると聞いていますが、特に問題はないでしょうか？
この領域のさらなる充実が望まれると思います。

《回答》

「障害」の表記については、本来の漢字として「障碍」とする、または、「障がい」と表記をする等の意見がありますが、千葉県では、法律等の文言でも「障害」の表記が使用されていることに鑑み、「障害」という表記を用いているところです。

○上記施策1同様、障害のある人の健康増進機会促進に期待したい。

○デリバリ講座の参加人数、コロナの中障害のある人の運動は難しかったと思う。令和3年度はコロナが無くなり、参加人数が増加することを期待します。

○障がいのある人の運動・スポーツの推進についても、今後のスポーツ推進における最重要課題のひとつであると考えている。「パラスポーツ」という用語の普及・浸透、障害のあるなしに関わらず皆が一体となって運動やスポーツを楽しむことのできる機会の創出（インクルージョン）は次期計画においては極めて重要な施策になるものと思われる。その際、どのような指標が、現実的でより効果的なのか、継続的な分析・検討が必要であるとする。

審議事項 b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和2年度の主な施策の工程表点検・評価

リンクC スポーツ環境の整備

施策1 人づくりの推進

○指導者数が横ばいの原因は気になりました。

＜回答＞

千葉県生涯スポーツ公認指導員等養成講習会を行い、県独自の指導者資格である千葉県生涯スポーツ公認指導員と千葉県スポーツリーダーを養成しています。（年1回）毎年一定数の受講者（資格取得者）がいますが、それを上回るペースで高齢の指導者が資格更新を辞退していることが原因と考えます。若い年齢層の方へ資格を取得できるよう、講習会の開催方法や取組を工夫してまいります。

○公認スポーツ指導者数の増加は必要と思う。もっと増加させる必要がある。

○これも「古くて新しい」課題であるが、今後の人づくりにおいては養成された指導者の有効活用が更に重要だ。どこの自治体でも「指導者バンク」が設置されていたとしても活用されている事例は少ない。養成した人材を、各スポーツの現場とどうつなげていくか、そのしくみづくりが益々重要になってくると感じている。

リンクC スポーツ環境の整備

施策2 施設の再整備と有効活用

○利用者数が減少傾向にある理由は気になりました。

＜回答＞

施設利用者減少の原因は以下の通りです。

- ・総合スポーツセンター R1年度は、台風による被害とコロナによる影響
R2年度は、集計中であるがコロナの影響により減少の可能性あり
- ・国際水泳場 R1年度は、コロナによる影響
R2年度は、集計中であるがコロナの影響により減少の可能性あり

○体育施設利用者数は延べ人数と思うが、実際の利用者と比較できれば良いと思う。

○千葉県の施設整備は、全国的にも下位にある。県立施設を急ぎ整備していく必要がある。

リンクC スポーツ環境の整備

施策3 システムづくりの推進

○リンクF施策3の回答に連動。

○総合型地域スポーツクラブの会員の多くは高齢者であり、コロナの影響で活動が休止、低迷したりと活動そのものに加えて、運営するメンバーのモチベーションも低下しているクラブもあり、再度クラブの状況を把握するとともに、継続できるよう支援を続ける必要があると思います。

○総合型地域スポーツクラブの認知度を高めてほしい。目標20%は少ないと思う。

○上述の施策1の内容にも関連するが、これまで別々に活動をしていた人たちを「繋ぐ」しくみというものが益々重要になってくると感じている。同じ地域・施設で活動をしているが繋がっていなかった人たち、同じ種目を行っているが繋がっていなかった人たちなど、人や組織を「繋ぐ」しくみが必要だ。総合型クラブやパラスポーツの認知度や参加率の向上についても、こうした仕組みづくりと関連づけて捉えていく必要があると思う。

審議事項 b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和2年度の主な施策の工程表点検・評価

リンクD 競技力の向上

施策1 選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上

○リンクE施策1の回答に連動。

○競技力の向上は、大会が中止となり残念です。

施策2 競技力向上のための環境整備

○リンクE施策1の回答に連動。

施策3 スポーツ医・科学の積極的な活用

○御意見・御質問なし

施策4 組織・調査等の充実

○御意見・御質問なし

施策5 競技会開催等の充実

○国際交流再開時期が不透明な中では、国内他都道府県との交流を代替施策として取り組んでみてはどうか？

《回答》

国内都道府県との交流については、各競技団体ごとに交流を行っております。御意見いただいたように、新型コロナウイルス感染症の影響で、国際交流だけでなく国内都道府県との交流も不透明な状況となっています。海外、国内の感染状況を注視しながら、交流等を実施していきたいと思っております。

○生徒の海外都市とのスポーツ交流は大いに賛成です。交流種目はどのように決定しているのでしょうか。今年中止になった分、来年度は新たな種目を追加するお考えはありますか。

《回答》

交流種目は、交流先と千葉県との間で、交流可能な競技を出し合い決定をしています。その際、競技団体の、組織面、財政面なども考慮しています。新たな種目の追加については、現時点では、来年度の新たな種目の追加は考えておりません。

施策6 競技スポーツの好循環

○リンクE 施策1の回答に連動。

リンクD全般

○個別の施策に対する意見というよりはリンクDに全般的に関連することかも知れないが、スポーツ医学の活用やジュニアアスリートの教育プログラムは、今後益々重要な意味を持つようになってきている。施策3及び6に関連か。

既に一定の競技レベルを持った対象への働きかけだけでなく、アスリートの裾野を広げる競技力向上施策にもっと着目すべきである。学校部活動改革においては、活動時間や日数などの量的な縮小に初めて言及しているわけであるが、その根拠になっているのは科学的な練習方法である。すなわち、学校部活動の隅々まで科学的な練習方法を浸透させる働きかけを、学校部活動改革に関連させながら並行して行っていかなければならない。例えば、コロナ禍で普及したオンライン（オンデマンド）による情報発信などは、こうした取り組みを飛躍的に推進させる可能性を持っている。

専門の指導者がいなくても、部員たちが自律的に自分たちに必要な情報（動画や資料等）を引き出せるとか、オンラインでトレーニングやコンディショニング、栄養などの専門家に相談できるなどのしくみもその一例だと思う。

競技力向上施策の中で、こうした視点（＝競技力の高くないアスリートの存在を認め対応を図ることやアスリートの裾野を広げること）を持たないと、既に始まっている人口減社会、さらなる少子化の進展の中で、競技力向上施策が過度の勝利至上主義につながったり、学校教育現場や部活動の現場において児童・生徒の分断を助長したりすることにもなりかねないと危惧している。

審議事項 b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和2年度の主な施策の工程表点検・評価

リンクE 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進

施策1 オリンピック・パラリンピックアスリート支援

○本大会開催が不透明な中で、トレーニングに取り組むトップアスリートは、コロナ禍を乗り越える象徴になりうる存在。彼らへの支援体制の維持を期待したい。

○活性化が進んでいる様子が資料からわかりました。

○2021年7月に東京オリンピックが開催されることを期待します。

リンクE 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進

施策2 スポーツを通じたネットワークの充実・拡大

○コロナ禍、オリンピック・パラリンピック延期によって、本来期待していた施策効用が大きく縮小してしまっている状況。オリンピック・パラリンピック後も見据え、取り組みの再構築を期待したい。

○オリンピック教室は、主催団体の意向を重視しますが、基本的に緊急事態宣言期間中は中止とし、期間中ではなくてもオリンピックアンが「外部講師」という立場になることから生徒への影響を考え検討をしました。

- コロナ禍における各事業への取組の推進には頭が下がる思いである。スポーツを通じたネットワークの充実・拡大という観点からは、これまで繋がることのなかった各々の立場の方たちが、オリ・パラを契機としてどの様に繋がり、今後生きるネットワークが構築されたのかどうか、検証し真の意味でのレガシーとして引き継いでいく必要があると思う。
- 教材用DVDについては、特別支援学校用に各学校種の障害種別の配慮を施した理解しやすいものにしていただきたい。

リンクE 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進

施策3 誰もが参加できるみんなのスポーツの推進

- 上記施策2同様。
- 一体となって、一緒に活動する（インクルージョン）という活動に、引き続き期待していきたいと感じた。
- 教材用DVDについては、特別支援学校用に各学校種の生涯種別の配慮を施した理解しやすいものにしていただきたい。

審議事項 b 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和2年度の主な施策の工程表点検・評価

リンクF スポーツによる地域の活力づくりの推進

施策1 トップ・プロスポーツと連携した地域づくりの推進

- コロナ禍における安全管理上、施策中止、縮小をせざるを得なかったことは、事業関係者としても残念。ただし、スポーツ・体育に関わる機会が大きく減少している昨今の社会環境下で、プロスポーツ団体が興味喚起・行動喚起において果たせる役割は相対的に高まっていると感じているので、今後も有効活用いただきたい。
- 千葉県内のプロスポーツとの協働の事業はスポーツの推進に大きく寄与し県民の関心も高まると思います。例えば、過去に千葉ロッテマリーンズのポスター等を手掛けている、渡辺潤平さんは千葉県出身でもあり、ご協力をえられれば、また違った切り口から県内のスポーツの推進・振興が図れると思います。
- コロナで連携の機会が無くなり残念です。

リンクF スポーツによる地域の活力づくりの推進

施策2 スポーツイベントを活用した千葉の魅力発信

- コロナ禍で産業や地域によって、集客などに大きく濃淡が出ている状況であり、経済・産業振興という視点で、県による事業への注目・期待が高まっている。本計画は千葉県教育委員会による「千葉県体育・スポーツ推進計画」ではあるが、そういった状況も鑑み、千葉県商工労働部等とのさらなる連携強化を期待したい。

リンクF スポーツによる地域の活力づくりの推進

施策3 身近なスポーツ資源と連携した知育づくりの推進

○コロナ禍を通して、減退してしまっている県民の体を動かす機会、健康増進機会の促進となるよう、取組に期待したい。

○行事やイベントへの参加以上に、スポーツ推進委員による新たな地域・地区の実情に合わせたスポーツ活動の創造が求められるのではないかと思います。

○スポーツ推進委員の方々の役割は益々重要になってくると考えている。これまでの実績や成果を明確に位置づける一方、更に多様化する地域スポーツの実施主体に対応しながらリーダーシップを発揮していくことが期待される。つまり、これまでの功績を称えつつ、スポーツ推進委員の改革も必要である。そしてこの改革はこれからの地域スポーツ推進においても大きな意味を持つと考えている。

審議事項 c 第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」概要及び構成図（案）について

○前提として「①東京オリンピック・パラリンピック後の取組」、および「②新型コロナウイルス 影響を受けてのマインド変化、行動変化」を適切に理解し、それを反映した計画であるべき。そのためには、①②に関する県民の意向・行動とそれによる運動能力などの数値変化を把握し、それを踏まえて構成図が作られていることが大切。

計画概要には①②ともに盛り込まれているが、そういった事前調査を21年度に元々予定している各種調査事業の中などで行う予定かどうか、伺いたい。もし、予定していないようであれば、ぜひ盛り込んでいただきたい。

※それくらい、特に②については、マインドも行動も変化しています（当事者が理解している分かりやすい変化もあれば、日々の生活の中でじわじわと変化が生じている分かりにくい変化もあり、そのいずれも理解した方が良いでしょう）

〈回答〉

事前調査は予定していませんが、例年行っている「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」や国の体力運動能力調査の結果を研究するとともに、今後の対応を御相談させていただきながら検討してまいります。

○教員の働き方改革、地域スポーツの産業化等の動きに対して、部活動及び総合型地域スポーツクラブの意味・意義を再考する必要があるのではないか？ 地域が担う活動（種目）には限界があるのではないか？また、指導者が生徒の生活時間に合致した体制を整えることができるのか疑問を感じます。千葉県としてどのように考えるのか、方針を示す必要があるのではないかと考えます。

〈回答〉

令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、国の地域部活動推進事業では、令和3年度と4年度に全国で実践研究を行うことになっています。千葉県教育委員会として、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題について、地域と連携して研究を進めてまいります。

○前回もご指摘させていただいたことで恐縮ですが、前回よりも読みやすくなったと思います。

しかし、**まだ「課題」が課題ではなく問題点を掲げている記述があります。**

《回答》

今後関係課間で共通理解を図り、課題と問題を整理して記述していくように努めてまいります。

課題は何かという意識で読むには課題がぼやけている箇所があります。

・リンクA 心身の健全な発達に向けた食育の推進

・活用や・・・学習を推進すること（確立すること）

・リンクB ライフステージに応じた運動・スポーツの推進

二つ目の○は現状を述べているだけかと思います。・・・実施地域の拡大でしょうか。

・リンクC システムづくりの推進

一つ目の○は現状を述べているとしか読み取れません。二つ目の○の前半は現状で述べて、課題としては、例えば、・・・機会の創造、・・・情報を収集し情報提供する。という書きぶりになると課題は何かを把握できるのではないかと思います。

・リンクD 選手の発掘・育成・強化及び指導者の育成・資質向上

一つ目の○は現状で述べ、その問題点の解決方法を課題として述べてはいかがでしょうか。例えば・・・環境の変化を選手強化に生かすこと。（どのようというのがある方がいいのですが）

○・・・高齢化が進んでいるのは現状で述べて、課題は若手指導者の育成ではないかと思います。

・リンクD 競技力向上のための環境整備

最新競技用具の何が課題なのでしょうか。購入、整備、確保でしょうか。

・リンクD スポーツ医・科学の積極的な活用

アスレティックトレーナーの活用の周知不足は現状であり、周知促進、周知方法の検討が課題になるかと思います。

・リンクE スポーツによる地域づくりの推進

課題の部分は箇条書きにしてはいかがでしょうか。・・・の研究の継続という書きぶりのほうが課題としてとらえやすいと思います。・・・システムの構築という体言止めのほうが課題としてとらえやすいと思います。

・リンクE 身近なスポーツ資源と連携した地域づくりの推進

課題の部分は現状であり、これを打破するための取り組みを課題に書いていただきたいと思います

○身体障害者におけるスポーツ環境について、普段から使用させていただいている。

千葉県障がい者スポーツレクリエーションセンターの改善を希望します。

《回答》

千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンターは、県の障害者スポーツの拠点施設として重要な役割を担っていますので、必要な修繕や整備等については適切に対応していきたいと考えています。

体温調節が困難な方もいる、真夏の効果や湿度、真冬の体の硬直、冷暖房室の設置は必須だと考えています。元設備の改善か、新たに施設を作る（移転、増設、、、）ことを検討していただけると幸いです。また、車いすのまま体力・筋力づくりができるジム（器具）もあると施設の利用は増える（障

害があってもやってみようかなと思える)かと思います。個人的な意見かもしれませんが、周りの選手からよく耳にしますのでお伝えします。金銭面、土地などのことを考えていませんので1つの意見です。(許されるのであれば、海外ではどのような施設があるか視察してもらえるといいですね)

○審議事項C-1

する・みる・ささえるスポーツの推進 → する・みる・ささえる・しるスポーツの推進 →

*「第12次計画と同様に、する・みる・ささえるスポーツの推進でよいのではないか。」

○新学習指導要領では、前要領の「行うこと、見ること、支えること」という学習のポイントに「知ること」が追加されましたが、あくまでも教科体育の内容(体育理論)であり、“スポーツの意義や価値等が十分理解できるよう学習内容を改善する”といった、スポーツに対する意欲や自主性を育む教師サイドのねらいです。

○現在の「する・みる・ささえる」というスポーツの視点は、県内に十分浸透し、親しみ感じている県民が多いものと考えます。しかし、これ以上視点が増えると県民によっては混乱が生じるとともに「しる」という視点は、これまでの3点とは少し意味合いが異なるものと思われる。

○県民のスポーツへの取り組み方はそれぞれですが、概ね「するスポーツ・みるスポーツ・ささえるスポーツ」に整理することができ、スポーツに魅力を感じている人たちのライフスタイルやニーズに合わせて選択し、楽しんだり親しんだりすることができています。

ここでの「しる」は、スポーツの意義や価値、魅力等を知っていただく知識の習得に資する視点であり、スポーツへの興味・関心を高め「するスポーツ・みるスポーツ・ささえるスポーツ」に取り組む県民を一人でも増やすための土台(3つの視点に関わる)になるものだと考えます。

○具体的には『しる』スポーツを独立させ、「する・みる・ささえる」それぞれに結びつくように図示し、県内における様々なイベントや情報発信をより一層強化し、スポーツの魅力をより多くの県民に伝えることで「するスポーツ・みるスポーツ・ささえるスポーツ」を推進する方向で整理し、

『しる』の取組を、リンクA~Hの関連する施策に盛り込んではいかがでしょうか。

○コロナ禍による、指導者や選手へのダメージは計り知れません。競技力向上の加え、様々なフォロー体制の充実が望まれると思います。

基本理念に「多様化」という用語が入ったのはとてもよいと思いました。

C:環境整備:「人的資源ネットワークの充実」「つながり」といった方向も重要だと考えます。また、他機関、他部署連携といった組織間ネットワークの充実も望まれると思います。

教育庁主体の計画ではありますが、今後機会があればスポーツに関わる他組織・他機関との連携イメージがもう少し強く出してもよいと思いました。

また、国で例えますと、サイクリングロードの整備、公園整備などは国土交通省?が関連しますし、地域の健康づくり運動とか、職場でのスポーツ推進だと厚生労働省関係になります。素晴らしい資源が千葉県にたくさんあることは承知しているのですが、アウトプットの仕方でもかなり印象が変わります。学校教育・社会体育中心のイメージが強いのです(実際そうではないのですが)。

高齢者のスポーツ推進に今後力を入れていただきたいと思いました。

○今回の事務局案に賛成

1. リンクの考え方について今計画について2回目、リンクの考えた方を踏襲し、きちんと理解してもらうことが重要。
2. リンクEは前回特出しの部分で、東京オリ・パラ後は5つのリンクに内容によりそれぞれ戻すことが妥当。
3. 知るスポーツという考え方は、今までの計画の中で弱い部分。あまり考えられていない部分で今回の計画で行うことは重要。これをどのように扱うか、工夫と検討が大事となる。
4. 13次の特徴となる主施策は重要で、十分検討が必要。

○原案には基本的に賛成致します。

次の4年間は、コロナの感染状況の変化やコロナのために機会を失ったスポーツ界の影響などが、どのように出てくるか不明であろうと思います。状況に応じて対応できるような体制を整えておく必要があると考えます。

多様化するスポーツに「散歩やダンス」などが入っていることは、個人的には嬉しいです。

『しる』スポーツの導入も、学習指導要領からの流れを捉えており、賛成致します。『する』と異なり、『しる』の場合はいろいろな手立ても考えることができるだろうと思います。

○まず「しる」スポーツを入れることについては、反対ではないが留意が必要であると思う。「しる」が「する・みる・ささえる」同レベルの多様な関わり方を意味するのかどうかの吟味は十分ではないと思う。それよりも国の第2期基本計画の要は「スポーツの「楽しさ」「喜び」こそがスポーツの価値の中核」であるとした点だと思う。新学習指導要領においても「生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自己に適した多様な楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切」であるとしている点がより肝要だ。「スポーツの目的や行い方は多様化しているが、その価値の中核はスポーツそのもののもつ「楽しさ」や「喜び」であり、自分に適した行い方を見付けたり工夫したりする上で「しるスポーツ」が（その基盤として）役立つ」という考え方をきちんと説明する必要があると感じた。科学的知識やスポーツ文化に対する理解を深めるという意味での「しる」スポーツの必要性については共感できるため、なおさらその説明の仕方が大切ではないかと感じた。まだ個人的な意見の域を出ないかも知れないが、コロナ後のスポーツ推進という意味からも、「明らかに一歩進んだ」目的・取り組みというものを強調することに意味があるのではないかと思った。

例えば

- ・スポーツ実施率：実施率については「生活活動」も含むことを明記して啓発・向上を迷わず進めていく
- ・運動部活動：「地域と連携した部活動」の具体的な形まで踏み込んで示し、県が目指す運動部活動の姿を明確に掲げていく
- ・パラスポーツ：障害のある方のスポーツの推進だけでなく、障害のある・なしに限らず多様な人々が一体となって一緒に楽しむことのできるスポーツをひとつの領域として示す。
- ・ネットワーク・連携：今まで一緒に運動やスポーツを行ってこそのなかつた立場の人たちを繋げる具体的な形まで踏み込んで示す。今までにはなかつた新たな繋がりをひとつでも多く生むスポーツ界の実現を強力に推進する。

- ・競技力向上：オンラインも活用したスポーツ医・科学の隅々までの浸透。競技力の高くないアスリートにまで行き届く医・科学的なトレーニング方法など。

このようなことが、コロナ後のスポーツ推進の中心になり得るのではないかと感じた。

いただきました御意見は、今後計画策定の際に各課で検討させていただきます。

その他 審議事項以外について（全体を通して）

- 上述のとおり、新型コロナウイルスの影響による、県民のマインド変化、行動変化を適切に把握するための、調査体制の検討をお願いしたい。※審議b、審議cに影響

《回答》

上記同様

- コロナ感染症を契機に、スポーツとのかかわり方が変化し、一部には、リモート等による勤務で平日居住地で個人的に運動する人々が増加している傾向があるならば、新たなスポーツ環境の整備（ジョギングコースの再整備、県内コースの紹介等）に予算配分できないのだろうか？

《回答》

県立都市公園においては施設の老朽化に伴う更新の時期を迎えているところであり、限られた予算のなかで引き続き安全に安心してスポーツできる環境を提供できるよう、効率的・効果的に維持修繕を実施しているところです。

新たなスポーツ環境の整備につきましては、施設更新のタイミングに合わせて健康遊具を設置するなど、時代と地域のニーズを捉えた公園整備に努めていきたいと考えています。

- アンケートについて

コロナ禍の中でほとんど変化がないように思える。クロス集計等により各グループ間の違いがあればお教え願いたい。

《回答》

コロナの影響は今年度初めて調査しました。様々な面からデータを活用できるように、集計方法を研究してまいります。

- 施策の実施状況（成果・課題）について

記載に概要欄とのダブリや無駄があるように思える。

実施状況を数字等や簡素化に記述し、特に重要なことをきちんと記述すると理解しやすくなる。

《回答》

今後、関係課間で共通理解を図り、簡素化して記述するように努めてまいります。

- 運動・スポーツに親しむ人とそうでない人々がはっきりと分かれているように思える。望むこと等についても聞かれれば答えるという程度のものが多く含まれているようだ。運動をあまり実施していない人々には何か新しい発想のもと施策を行う必要があるのでは？

- 構成図は全体を容易に把握するためにまず目を通すところだと思います。各部署等で作成されたものを取りまとめることは、大変な作業だったと拝察しますが、各施策やリンクによって多少書きぶりに

差があるように感じました。本体についても同様に書きぶりをそろえていただけると読みやすく、さらに内容が入っていきやすいと感じました。これを読んだ方が、千葉県のスポーツの推進を身近に感じるためにも大切な計画だと思っております。

ここまでの編集へのご尽力に敬意を表しております。

○審議事項bについて

コロナ禍の中、個々の施策について中止・延期、工夫・変更の上実施、その他通常どおり実施等いろいろあるが、これらの効果、成果は大きく変化はしていないようである。また、評価できないものもある。そこでここでは全体を通じて意見を述べる。

1. それぞれの評価は今年度のみ評価として取り扱い、今までの一連のものとは比較しない。

2. 次の3つの施策を区分し、評価等記載する。

1) 中止・延期したもの 今年評価なし

2) 工夫・変更により実施したもの 工夫・変更及びその効果・成果を評価

3) 通常通り実施できたもの コロナ禍の影響がどうであったかを判断の上評価

注) 1) について2) のように工夫・変更等により実施可能と考えられる場合はそれらについて今後の課題とする。

○例年通りにならないことが続き、ご苦勞の多い年であったと思います。いろいろとありがとうございました。

○アクアラインの特別映像については、中止となった多くのマラソンイベントの対応のひとつのモデルとなる様な良い取組だったと思う。イベントと、人々の日頃の運動習慣を繋ぐ役割にもなっていて面白いと感じた。

調査結果についてであるが、コロナ禍の運動習慣への影響には興味がある。「変わらない」という回答が多かったのは、この中にはもともとそれほど行っていなくて変わらない人と、もともとかなり行っていて変わらない人の双方が含まれているので、単純に一括りにはできないのではないかと感じた。これまでの運動習慣とのクロス集計など、もう少し分析してみたい気がした。

○施策「誰もが参加できるみんなのスポーツの推進」の具体的取組に示してある内容に加え、キャラバンの大会や研修等の小規模の活動で地道に定着を図る取組の具体を示してほしい。

○この1年間関係者の皆様におかれましてはコロナ禍で本当に大変だったことと思います。

しかし、スポーツの価値が再認識されてもいると思います。コロナ禍が今後スポーツ推進のために何かプラスになっていくことを期待いたします。

お送りいただいた資料と、この記録用紙の対応がわかりにくかったので（何について、どこに何を審議して記載するのか）、誤った場所に回答してしまっていたらご容赦ください。

資料：審議事項Bのほか、B-1、B-2の資料があります。このB-1、B-2は、「別冊」の補足資料であり、審議するのは「別冊」ということを把握するまでに時間がかかりました。

○令和2年度はコロナの影響が大きかった。コロナの終息を願うばかりです。